

3-15 杉森小学校

◆ 「命」の授業

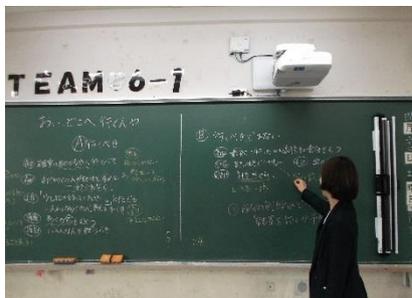
生きとし生けるものを慈しみ、生命の大切さを考える授業(道徳)

第6学年

最初に阪神淡路大震災について知っていることを話し合いました。子供たちから、「たくさんの方が被害に遭ったこと」「高速道路が倒れて大きな被害が出たこと」等が出されました。次に資料を読んで、モラルジレンマが生じる場面での主人公の気持ちや行動について考えました。

「ぼくはこの命の学習を通して、いろいろな意見をもつ人がいることが分かった。これからも友達のことを聞いて、自分を成長させたい。」や「自分の行動を決断し、臨機応変に動けるようになりたい。」等、自分と反対の考えをもった友達の意見にも耳を傾ける中で、自分の意見をしっかりとすることもできました。

また、「私がもしその場にいたら、あせらず冷静になってより多くの命を全力で助けたい。」と、命の尊さやかけがえない生命を大切にしようとする子供の姿を見ることができました。



◆ 保護者・地域への啓発

防災～自分たちにできることから始めよう～

講師 山崎 光 氏

防災団体 やろうよ！こどもぼうさい 代表・防災士

防災啓発ドキュメンタリー映画「いつか君の花明かりには」の映画を鑑賞後、監督である山崎光さんから防災に関する講話をしていただきました。地域の災害リスクについて知るといふねらいから、首都直下地震や多摩川の氾濫等、杉森小学校学区の災害リスクについて、画像を見たりクイズに答えたりしながら理解を深めることができました。杉森小学校周辺ハザードマ



ップを見た際には、万が一のときにはどこに避難するのか、どのルートを通ればよいのか、子供たちはイメージを広げ考えていました。

家族で行うことができる防災の取組として、家具の固定や通学路防災マップの作成、家族での防災会議、防災リュックについて教わり、「お家に帰ったら早速確認してみよう。」「家族で取り組んでみよう。」という子供たちの声が聞こえてきました。

3-16 飛田給小学校

◆ 「命」の授業

全13学級で系統的な防災に関する授業を実施

各学年発達段階に応じた授業を行いました。

命の授業として、第1学年は学級活動「こんなときどうするの」、第2学年は学級活動「ぼうさいについてかんがえよう」、第3学年は道徳「命を守ることについて考えよう」、第4学年は学級活動「もしも地震が起きたら」、第5学年は学級活動「地震から命を守る知恵」、第6学年は学級活動「避難所生活について考える」を実施しました。どの学年も多くの保護者・地域の方々が参観する中、それぞれの課題について、子どもたちは真剣に考え、意見を発表していました。



◆ 保護者・地域への啓発

「避難所運営マニュアルについて～震災に備えて 各個人の行うべきこと～」

講師 川内 武雄 氏

飛田給小学校避難所運営マニュアル作成委員長

講演前半は、飛田給小学校避難所運営マニュアルの作成の経緯から作成の際に特に留意されたこと等を中心にお話いただきました。後半は、震災に備えて私たちが日常から心がけておくべき内容について中心にお話いただきました。最後に、災害時には、出来るだけ決められた通り行動することが大切であることをお話していただきました。



3-17 柏野小学校

◆ 「命」の授業

『命を守る』（災害への計画的な備えの必要性について）

第5学年

災害（大地震）が起きたときの「自分の命を守るための心構えや行動」について考えました。まずは、各自の登下校コースにおいて、大地震で危険になる場所と安全である場所を探しました。その後、地域（下校コース）ごとに分かれて理由も伝えながらグループの話し合いを行いました。毎日通学している経験から、建物の倒壊、窓ガラスや塀の破損で通行不可能になりそうな道路、逆に幅があり建物も低いので危険が少ないと思われる道路を判断することができていました。安全性を考えた意見を述べ、活発に話し合う姿も見られました。互いの考えを交流しながら、自分の命は自分で守る「自助」の考え方を基本に、災害時の望ましい行動について、考えを深めることができました。『備えあれば憂いなし』のことわざの意味を実感しながら、命を守る「自助」について、改めて考えた授業になりました。



◆ 保護者・地域への啓発

防災講話「自分の命を自分で守り、大切な人の命も守るためにできること」

講師 調布消防署員

「東日本大震災では、東京でも、食料不足や大渋滞、携帯電話は圏外で大混乱に陥り、買い物に行っても欲しいものがない状況が続きました。もしも直下型だったら…」という語りかけで講話が始まりました。今後30年以内に70%の確率で発生するといわれている大震災の際に、自分の命を自分で守り（自助）大切な人の命も守る（共助）ための備えや心構えについて、具体例を交えてお話をいただきました。まずは被害に遭った人の声に耳を傾けて知ること、そして、最悪の事態を想定して備えること、さらに、集団の様子にとらわれずに自分の判断で「とにかく避難する」こと、それが命を守ることになること熱心に語っていただきました。「助けられる人から助ける人に」「自分にできることは何か、と考えて」という大切なメッセージが、心に伝わってきました。



3-18 国領小学校

◆ 「命」の授業

あなたならその時どうする？ 一命を守る つなぐために考えるー

第6学年

大地震が起きた時、自分がどのような行動を取ったらよいのかを考えました。

授業の導入では、みんなで東日本大震災について思い出し、発災時の様子や被害の状況について確認をしました。

次に、実際に地震が起きた時に予想される被害や困ることについて、各自ワークシートに記入してから、自分の身を守るための行動についてグループごとに話し合いました。子供たちは、意見交換をする中で、実際に自分の命を守ることの難しさを感じていました。



最後に、教師が「東京防災」や「防災手帳」の紹介をして、日頃から家族と共に被災時の約束事を確認し、いざというときの共通理解を図っておくことの大切さを伝えました。

◆ 保護者・地域への啓発

防災講話「君の命を守りたい」

講師 調布消防署員

首都直下型地震を想定して作成されたDVD「君の命を守りたい」を視聴し、「自助・共助の大切さ」と「地域の絆」について学びました。杉並区や昭島市、荒川区などの取り組みを例に、地域住民や中学生などが参加しての防災訓練の様子が紹介されました。「公助には限界があるため、いかに自分たちで命を守るか」、「助けられる側から助ける側への意識転換」ということの重要性を感じさせられる内容でした。奥田さんからは、①備えることの大切さ ②自助・共助 ③備蓄の重要性 ④被災時にとるべき行動について、調布市の具体的な事例をもとにしながら、分かりやすくご講演いただきました。



3-19 布田小学校

◆ 「命」の授業

講話「津波 その時、そしてその後」	元岩手大学客員教授 高橋 寛 先生
全学年	

8年前の、東日本大震災についてお話を聞きました。

内容は、①地震が発生したとき、そしてその被害の様子、②被災直後からの人々の対応 ③復興に向けての取組の3点です。

震災から8年が経ち、学年によってはまだ生まれていないときの出来事となります。地震の揺れの激しさや津波の大きさ、それによる被害の状況などを写真やデータをもとに伺いました。また、被災後の避難所の人々の様子についての話や被災者を励ます100歳の女性の詩の朗読などを聞きました。ここまでで、児童は、地震に備える心構えを改めて考えたり、一人一人ができることに取り組み支え合う大切さを実感したりしていました。また、復興への取組に感動し、応援しようという気持ちも高めていました。

最後に高橋先生がおっしゃられた、「強くなければ生きて行けない、優しくなければ生きる資格がない。」という言葉が一人一人が受け止め、災害への心構えを新たにしました。

◆ 保護者・地域への啓発

避難所運営訓練(アルファ米・居住スペース・トイレ)
講師 布田小地区ハッピータウン協議会役員

地区協議会「布田小地区ハッピータウン協議会」と市の職員の方々の説明による、体験活動を行いました。アルファ米へのお湯入れや、居住スペースづくりといった体験を通して、正しい知識を身に付けたり、自助・共助の精神を高めたりすることが目標でした。

始めに、アルファ米へのお湯入れまでの手順を聞きながら、地区ごとに実際の作業を行いました。同時に居住スペースづくりとして、段ボールを長方形になるように敷き詰め、その上にブルーシートを被せる作業も行いました。

また、組み立て式のトイレの様子を見学したり、簡易トイレ（便器に被せて使用するキット）も役に立つという説明を聞いたりしました。

調布南高校の生徒もボランティアとして参加してくれましたが、高校生の力強さが印象に残りました。被災後すぐには大人の手が足りないことが予想されます。中学生や高校生の力が大きな助けになるのではないかと感じました。

3-20 調和小学校

◆ 「命」の授業

じぶんのからだはじぶんでまもろう

第1学年

1年生は災害が起きたらどう行動すればいいかを学びました。家や外にいる時に地震が起きたらテーブルの下にかくれたり、塀や建物から離れて頭を守ったりすることを学んだあと、授業中に教室で地震が起きたらどうするか考えました。子供たちからは、「つくえの下にもぐる。」「防災頭巾をかぶって避難する。」「先生の話をよく聞く。」というような意見が出てきました。そして、実際に机の下にもぐって脚を握る「おさるのポーズ」をやってみました。防災頭巾を素早くかぶる練習もしました。自分の体の守り方が分かった1年生。4時間目の避難訓練も「お・か・し・も」を守って立派に避難することができました。



◆ 保護者・地域への啓発

「ママ・パパがやるべき防災・減災」

講師 清田 裕理 氏

東都生協ライフプランアドバイザー

東都生協ライフプランアドバイザーであり、本校の元PTA会長である清田裕理様をお招きして子供のいる家庭ならではの防災・減災についてお話しいただきました。

①家の中の安全スペースを見つけよう。②子供に「生きる力」を身に付けさせよう。③我が家に必要な防災リュックを作ろう。④家族との連絡方法や待ち合わせ場所を確認しよう。という4つの視点からのお話でした。

災害が起きた時、家で子供だけだった時、どこでどのように過ごせばいいか、自分たちにとって本当に必要なものが入っている防災リュックの作り方など、すぐに取り組める防災・減災のアイデアが満載のお話でした。保護者の方々からも「役にたった。」「帰ったらさっそく取り組みたい。」という言葉が聞かれ、とても好評でした。



3-21 調布中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

資料名「天を恨まず」 東日本大震災で大きな被害にあい、気仙沼市立階上中学校で震災の1週間後に行われた卒業式での卒業生代表の梶原裕大君の言葉を題材に行いました。現在の中学生は東日本大震災の時、まだ小さいのであまり覚えていない世代。今回はこの階上中学校の卒業生代表の言葉をCDで生の声を聞いたので、いろいろと考えて話し合い活動なども取り入れ各クラス一斉懸命取り組んでいました。



◆ 保護者・地域への啓発

防火啓発講話会「東日本大震災について」

講師 鳥居 利至 氏

杉並区立宮前中学校 校長

東日本大震災に関して～被災地の学校支援を通して～というテーマで講演していただきました。東日本大震災の実際の被害状況について映像などを通して説明したり、支援・復興に向けた取り組み、今から考えること・できることなど、防災についてのお話をいただきました。

保護者や地域の方々にも参加をいただきました。生徒は真剣に取り組んでいました。終了後生徒は感想文を書きました。よく考え、講演の感想や今後の備えなど一生懸命に書いていました。



3-22 神代中学校

◆ 「命」の授業

1年「決断！骨髄バンク移植第1号」 2年「奇跡の1週間」
3年「人間の命とは」 10組「いのちの言葉」

特別支援学級10組では、東日本大震災での被害を振り返りながら、本当に大切なものは何か具体的な言葉をもとに、いのちの大切さを考える活動をしました。また、1, 2, 3年生ではそれぞれの設定された課題の中で、今必要なこと、大切にすることを考え、深める活動をしました。



◆ 保護者・地域への啓発

地域防災 災害発生時の心得

神代中学校・上ノ原小学校

講師 調布消防署員

今年度も、上ノ原小学校・神代中学校の共催で地域防災に関わる講話を調布消防署深大寺出張所の方を講師としてお招きし、開催しました。

この地域での災害想定の大危険度や、危険が考えられる場所などのお話を聞き、特に急傾斜地崩落について注意喚起を受けました。また、「自助」についてのお話では、3日間の救援が来るまでの食料等の備え、特に飲料水の備えを各家庭でした方がよいとのことでした。人一人が1日生活するためには水3リットルが必要になるので、4人家族3日間だと36リットルを確保しようとお話でした。話の折々に、スーパーレスキュー隊員としての経験談も織り交ぜたお話で、日頃から「今災害が起こったらこう行動する」という思考を大切に、という思いが強く伝わってきました。



3-23 第三中学校

◆ 「命」の授業

～ 徹底した避難経路の検証 ～

普段から実施されている避難訓練の避難経路について各クラスで検証した。例題を上げ、災害が起きた時間、場所、状況を瞬時に把握し、自分で避難経路や避難方法を考えさせた。避難訓練では、通常決められた何通りかの経路を使って行うが、実際に大きな災害が起きた場合、マニュアル通りに行かない場合が十分に予測される。今回の授業の中で、自分の命、他人の命を守るため、主体的に安全について考える機会をもつことができた。また、避難時の臨機応変な対応の必要性を学ぶことができ、防災に対する意識を高めることができた。

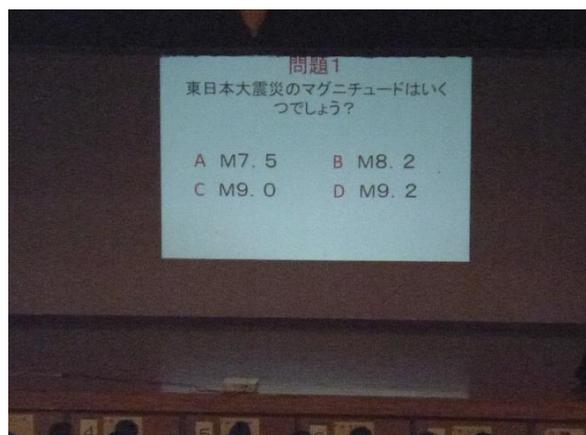
◆ 保護者・地域への啓発

防災(地震)に関する講話

講師 調布消防署員

調布消防署、国領出張所長の津田さんを招き、「大地震の備え」についての防災講話がありました。前半は、所長さんより過去の大地震を例にあげて、4択の質問形式で行い、生徒の興味、関心を引かせる内容でした。

後半は、中央委員会生徒が防災に関するクイズを出題し、講師よりその答え合わせと解説をもらうという形式で行いました。講話は、生徒の興味、関心を引くもので、とても充実した内容でした。



3-24 第四中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ, 大切さを考える授業(道徳)

文藝春秋 平成23年8月臨時増刊号「つなみ」被災地のこども80人の作文集より, 宮城県名取市閑上中学校2年生の小齋可菜子さんの書いた『世界中の人に恩返ししたい』という作文を題材に授業を展開した。学年ごとに発問内容を変え, 東日本大震災で学校の周りの家などが, 津波で流されていく様子を見ている生徒の気持ちなどを考えました。各クラス担任が工夫していろいろな思いを発表していました。



◆ 保護者・地域への啓発

防火防災に関する講話・訓練

講師 調布消防署員

調布消防署つつじヶ丘出張所所長を招き, 防火防災に関する講演会を実施しました。講演会に先駆けて合唱部が「群青」という合唱曲を披露しました。東日本大震災原発事故の影響で日本中にバラバラになった生徒たちがいつの日にか, また仲間と再会することを願い2年後に作り, 歌った曲です。



3-25 第五中学校

◆ 「命」の授業

道徳「あなたはひかり」

「あなたはひかり」という詩を読み、「いのち」について多面的、多角的に考え、「いのち」が唯一であり有限なものであることなどから、「いのち」の大切さについて学びました。

「いのち」の形をイメージし、将来どんな形にしていきたいか、もっと輝かせるために大切にしたいことなどを考え、グループで発表しました。

終わりに、授業を通して「いのち」について気付いたことや考えたことを共有しました。



◆ 保護者・地域への啓発

防火防災に関する講話・訓練

講師 田路 稔 氏

元兵庫県宝塚市立小学校長

スライドを用いて、阪神淡路大震災の経験をお話いただきました。当時の震災直後の住宅街や学校の様子、避難所の運営や過ごし方などを、クイズを交えながら当時の様子をイメージしやすいように、伝えていただきました。

田路先生は、防災意識を高めるために、自分たちが住んでいる地域がどんな地域なのか、川や地層など、どんな作りになっているのかを知ることが大切だとお話しされました。また、避難所では狭いスペースにたくさんの方がプライバシーもほとんどなく、共同生活を強いられることもあるので、お互いに思いやりをもって過ごすように努めることが大切だともお話しされました。



3-26 第六中学校

◆ 「命」の授業

第1学年 「エルトゥールル号海難事件をきっかけとした日本とトルコの善の連鎖を考える」

第2学年 「語りかける目」

第3学年 「人間の命とは――人間の命の尊さ・大切さを考える」

第1学年では、「エルトゥールル号海難事件」をきっかけに日本とトルコが国境を越えて互いに助け合っていることや命の大切さについて時を超えて受け継いでいることを学びました。

第2学年では、阪神淡路大震災で母親を亡くした少女が警察官に語ったことをもとにした「語りかける目」という警察官の手記を題材に授業を行いました。母親の少女への思いや少女の母親への思いについて意見交換しながら命の大切さに対する考えを深めました。

第3学年では、「カレン・クインラン事件の裁判」から延命治療か尊厳死か、それぞれの考え方を意見交換する中で、命の尊さや大切さを学びました。



◆ 保護者・地域への啓発

首都圏直下型地震の災害に備えて

～阪神淡路大震災や東日本大震災の経験から～

講師 調布消防署員

阪神淡路大震災や東日本大震災の被災の様子から、各自が自助・共助の精神をもつことや日頃の備えをきちんとした上で、地域一帯となった防災活動の必要性を関根氏は訴えました。その中で、生徒に7つの問いかけをし、生徒に防災意識を深めさせていました。



3-27 第七中学校

◆ 「命」の授業

78円の命

第3学年

今回は「命を考える」を主題とし、愛知県の小学生の作文「78円の命」を取り上げ、動画「ハルの日」を補助教材として生命の尊さを考えました。

「あなたはペットを飼っています。家庭の事情で引っ越すことになったが、そこではペットを飼うことができません。あなたならどうしますか？」この問いかけから始まり、動画や78円の命を読み意見を交換した後、また同じ質問をすると生徒の考えに変化がでました。

「78円の命」では、筆者がこう締めくくっています。「命を守るのは簡単な事ではない。かわいと思うだけでは動物は育てられない。生き物を飼うということは1つの命にきちんと責任をもつことだ。だから、ちゃんと最期まで育てられるという自信がなければ飼ってはいけない。」

生徒達はこの授業を通して命の大切さを改めて考えることができました。



◆ 保護者・地域への啓発

「被災者が伝える避難所運営」—東日本大震災を経験して—

八雲台小学校・第七中学校

講師 武山 ひかる 氏

東松島市学生震災ガイド TTT 3.11 東京福祉大学1年

宮城県東松島市出身の武山さんは、10歳の時、東日本大震災を経験しました。「地震発生の時、テストを受けていて大きな地響きと大きな揺れが私たちを襲いました・・・。」とその時の様子を語り始めました。外は雪が降っていて緊急の放送も突然切れ、校庭に避難した後、家に帰り、親の車で高台に避難したそうです。避難時のルールとされる「お・か・し・も」は知っていても情報の少なさや不確実さから車で家に戻ってしまったため、途中で車が水の中に突っ込んでしまったそうです。その後避難所で生活して感じたことは、中学生ができることがとても多く、中学生こそ避難所では重要な役割があるということです。それは地域のことや避難所（特に学校）のことを一番良く知っているのはそこで毎日過ごしていた中学生であるからだと言っていました。お年寄りの世話、小さな子供の世話、受付や誘導など、地域の力となって活躍して欲しいと期待していました。



3-28 第八中学校

◆ 「命」の授業

（道徳）1年「見沼に降る星」、2年「震災の中で」、3年「一冊の漫画雑誌」

各学年とも道徳の教科書教材をもとに、命の大切さ・震災の時の人々の心情や行動について考えました。1年生は身近な友人をなくした主人公の成長，2年生は阪神・淡路大震災でのボランティア活動の経験，3年生は東日本大震災後の仙台の本屋さんにつわる募金活動の話。それぞれ命と向き合うこと，思いやりや助け合いの大切さなどを真剣に考えていました。

写真資料や映像などを工夫しながらの教師からの発問に，生徒たちからは命の重さや生きるために大切なことへのさまざまな意見が出ました。一人一人の意見についてグループで交換し合い，さらに自分の考えを深めることができました。



◆ 保護者・地域への啓発

災害への備えについて

本校主任教諭 名和 大輝, 3年生代表生徒

地震や豪雨災害の恐ろしさやそれらに対する備えの大切さについて，今年2月に本所防災館で実際に体験してきた3年生を代表して3名の生徒が発表しました。スライドやクイズを交えるなどの工夫もあり，全校生徒や地域・保護者の方も一緒に考えることができました。

その後生活指導主任の名和教諭から，東京防災救急協会が制作した「君の命を守りたい」という映像を基に，「公助」に頼って待つだけではなく，「自助」「共助」の大切さを学びました。そして中学生が地域の中での力として重要であることも改めて確認しました。

